

創立20周年記念特集

工作・加工関連業務の実状についてのアンケート集計

工作センター長 青木 貞雄
同 専任講師 長田 秀治

はじめに

本学創立以来、様々な工作業務が各部署で実施されてきました。当初は関連業務を担当する人数も比較的少なく学内交流も活発に行われていましたが、大学の規模拡大に伴い、かえって全体の様子が掴みにくくなってしまいました。何らかの機会に学内の工作業務の活動を把握して、本センターの役割を見直すことは意義のあることと考え、創立20周年を記念して、全学対象に「工作・加工関連業務」のアンケートをお願いしました。学系・センターの方々から貴重なご意見を頂き、有難うございました。

アンケートの項目とその集計結果を下記に示します。

1. 回答数：27件（学系：14、センター：11、その他：2）
学系によっては、複数の個人回答も頂きました。
2. 専用の工作室を所有：取り扱っている工作対象は金属が主であるが、プラスチック、木材等も含まれる。
 - a. 物理工・物質工・構造工学系（3学系共用工作室）：金属加工
 - b. 芸術学系（工房）：金属加工、プラスチック加工、木工
 - c. 基礎・臨床・社会医学系（医学3学系工作室）：金属加工、プラスチック加工、木工、金属・プラスチック電気材料・部品の支給
 - d. 農林技術センター：金属加工、木工
 - e. 加速器センター：金属加工、真空機器溶接
 - f. 水理実験センター：金属加工、プラスチック加工、木工
 - g. 下田臨海実験センター：金属加工、木工
3. 工作室担当者：ほぼ専任の人数をカッコ内に示したが、職務の一部になっている人は、この数倍と推定される。
 - a. 物理工学系（3名）
 - b. 芸術学系（1名）
 - c. 医学3学系（2名）
 - d. 農林技術センター（2名）
 - e. 加速器センター（2名）
 - f. 水理実験センター（1名）
 - g. 下田臨海実験センター（1名）

4. 工作室の運用

- a. 芸術学系工房 : 教官等から依頼があったときは製作。学生には、指導を与え依頼者自ら工作。
- b. 医学3学系工作室 : 非公開、公開がある。機械・工具で公開されているものは、定められた時間内で利用可。
- c. 農林技術センター : 専任者が管理し、使用時間を記録し、定期的に整備を行っている。
- d. 加速器センター : 共同で使用。センターを利用する教官・院生にも開放。
- e. 水理実験センター : 担当者指導の下、依頼者と共同で運用。
- f. 下田臨海実験センター : 技官が主に使用。教官・学生にも開放（ボール盤、糸・丸鋸程度）

5. 工作センターとのコンタクト（工作室を所有する所）

- a. 何らかの形である—— 3学共用工作室（物理工・物質工・構造工学系）、医学3学系工作室、加速器センター、水理実験センター、下田臨海実験センター
- b. 無し—————— 芸術学系工房、農林技術センター

6. その他のご意見

- a. 工作センターがどのような業務を行っているか、知らなかった。
- b. 工作センターをもっと充実させ、学内全ての要求に対応出来るようにしてほしい。
- c. 講習会を行ってほしい。
- d. 3学系共用工作室を使用しての業務がほとんどで、学系においては研究室の負担軽減になっていると思われるが、新しい機械購入については非常に理解されていない。機械が非常に古くなって来ているので、今後の継続が難しい。
- e. 工作センターから外注する際の、業者の技術力を把握しておいてほしい。
- f. ガラス工作の技官の充実を希望する。
- g. 依頼の際、技術者との直接交渉で仕事の打合わせ、作業進行を行えるよう改善してほしい。

まとめ

集計結果を見ますと工作室の数が予想以上にありましたが、「工作担当者」の人数が以外と少なかったことです。「専任」に近い方の人数が表わしにくかったのではないかと考えられます。「工作室の運用」では、教官・学生共に利用機会が与えられている点は予想通りでした。

本アンケートは、全学の工作業務の全容を捉えているわけではありません。今回をきっかけとして、さらに詳しい調査と整備が行われることを期待します。